

歴史的モノ資料をどのようにデジタル で認識するか



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立歴史民俗博物館 後藤真

アウトライン

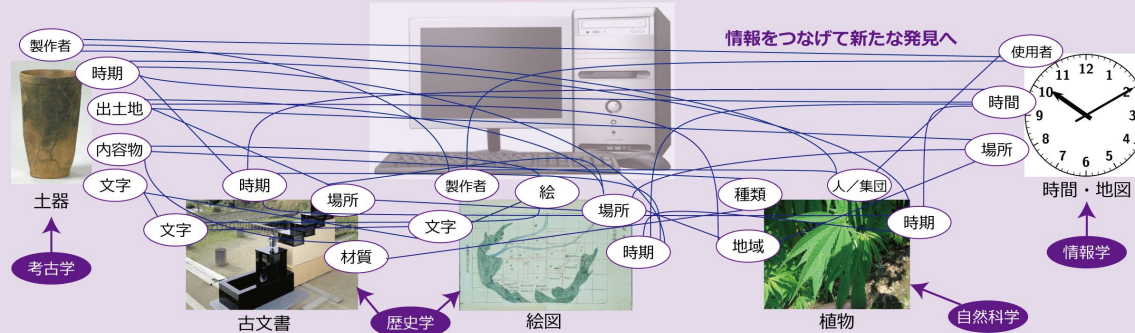
- 歴博の「ねらい」としての総合資料学
- 歴史モノ資料とはどのようなものがあるか？
- 歴史モノ資料に識別子を付すという課題

歴博が最近進めていること

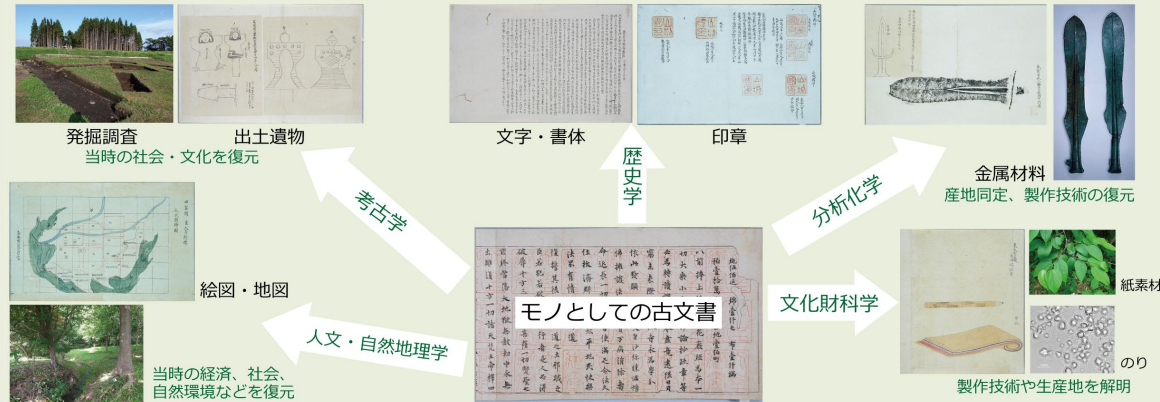
- 「総合資料学」の創成
- 今までと異なる資料の見え方／見せ方
 - 資料をさまざまな角度から見る／別の資料とつなげてみることで、新たな資料の見方を作り出す
- 大学歴史研究資料・博物館資料の全体のネットワーク構築

人文情報ユニット（アクセスデータ構築）

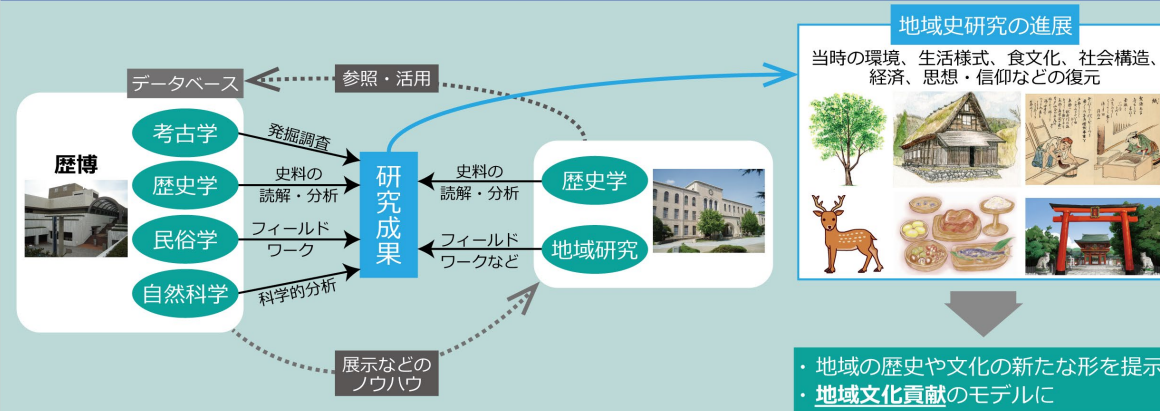
異分野を横断した研究の実現を支える基盤



異分野連携ユニット（構築したデータの研究活用）

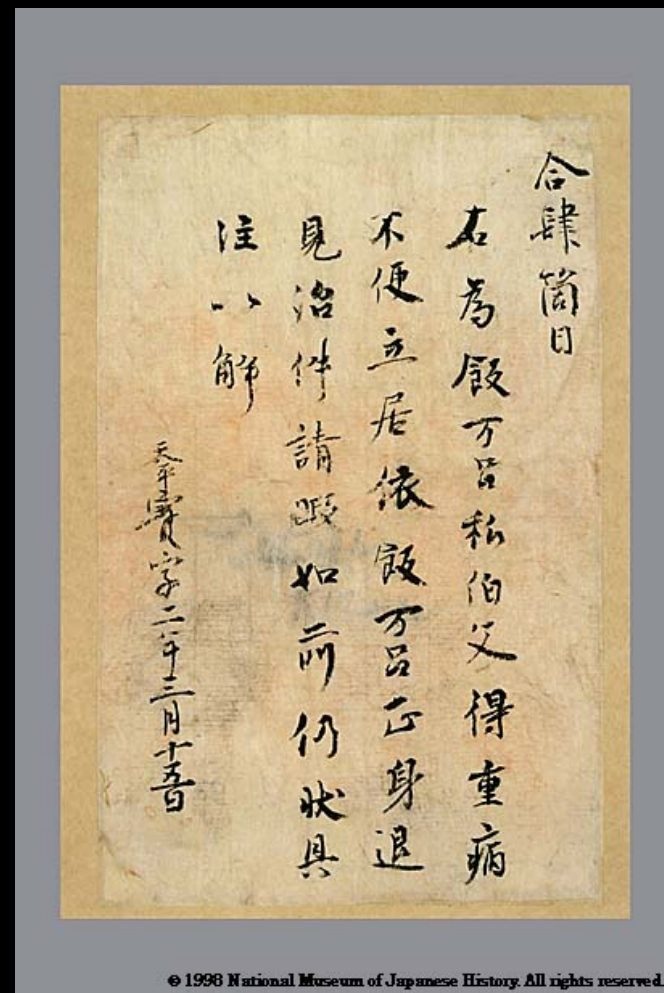


地域連携・教育ユニット（研究成果の社会的活用）



さまざまな資料学 古文書学

- 資料から読み取れるもの
- 歴史を理解する材料を効果的に取り出すためでもある



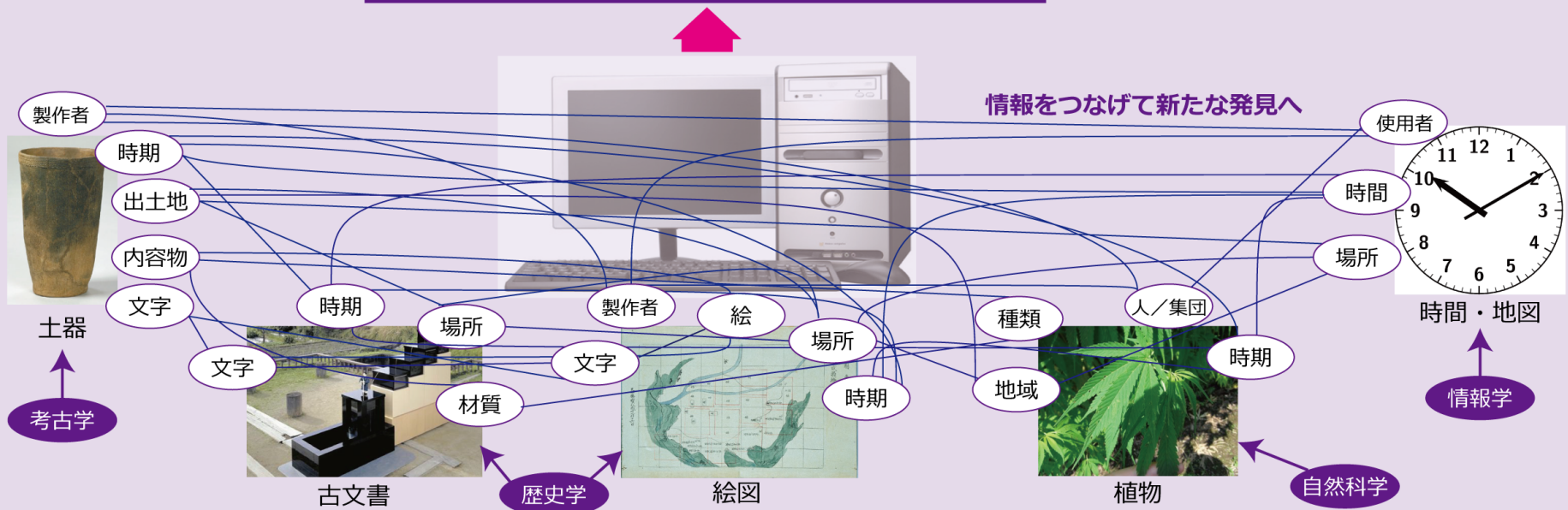
さまざまな資料学

- 同じような考え方はさまざまな分野にある
 - 考古学→土器分類・埴輪・古墳の形に至るまで...
 - 民俗学→民具と呼ばれるものの研究やフィールドワークの手法
 - 美術史→絵画はいうに及ばず
- そもそも、理系の多くの分野も「材料から情報をとる」ことで成り立っている



人文情報ユニット（アクセスデータ構築）

異分野を横断した研究の実現を支える基盤



大学・博物館資料ネットワークのために

- ・研究のエビデンスとして歴史資料を活用できるようにする
- ・論文⇔歴史資料へのアクセスを確保することは資料の多様な情報付与にもつながる
- ・「博物館型オープンサイエンス」を夢に

モノ資料が持つ課題

先行研究

- 博物資料情報に対するDOI付与の意義と展望（堀井洋・林ほか2016）（『情報知識学会誌』26（2））
http://doi.org/10.2964/jsik_2016_022
- 博物館におけるデジタル資料情報の記述法：転写資料記述のための概念モデル（安達文夫2012）（『国立歴史民俗博物館研究報告』176）

など

単位の問題

- 歴史資料を認識する際に「1件」と「1点」は異なる概念
 - 1件の中に5点の資料があるという階層性
- 点数が確定しないものをどのようにとらえるか
- Ex:土器があとで接合することが判明した（で、実際にくっつけてしまった）
- いくつか解決策は考えられるが
 - もともとバラバラのものにそれぞれIID、接合後に新規IIDでよい？

ランディングページ問題





© 1999 National Museum of Japanese History. All rights reserved.



国立歴史民俗博物館
National Museum of Japanese History



国立歴史民俗博物館
総合資料学の創成
INTEGRATED STUDIES OF CULTURAL AND RESEARCH RESOURCES



大学共同利用機関法人
人間文化研究機構

歴史的経緯の記述方法

- 集合文書と呼ばれる概念
- ずいぶん前からの話題ではあるのだが...

研究者の認識にもとづくDOI付与の工夫

- 論文等で適切に引用されるようなつくりである必要がある（）
- 一方で、個別の資料の事情をどこまでも聞くことはできない→適切なモデル化の重要性

博物館固有の事情...？

- IDという概念が弱い
 - これまで話してきた歴史的経緯もあるであろうが...
 - ただ、これは運用でカバーを試みるべき問題か→システムIDの単位問題
- 複製をどのように考えるか→先行研究で指摘はある
 - 例：■■寺の**絵図（原本）と東大史料編纂所の**絵図模本と歴博の所蔵する**絵図複製と△△博物館が所蔵する**絵図複製の関係は？

× 三 紀伊国井上本庄絵図 複製



× 三 紀伊国井上本庄絵図



組織としての資料収集をどのように考えるか

- 総合資料学と遠く連携した動きで
- 大学をハブとした地域歴史資料ネットワークの強化（人間文化研究機構全体）
- この事業の中で「データ記録化」というモデルが入っている
- 今年度準備研究を開始

大学—地域—資料という階層

- アーカイブズ的（ただし組織の構造は異なる）
- 「発見」という観点からは大学につけるべき（であるし、実際に大学以外では対応できないが）
- 博物館資料でも所蔵を超えた概念がある（オープンにできるかどうか微妙なものも多いので議論の優先順位は下がるか）

今後に向けて

- 階層型モデルの課題
 - 複雑な階層は第三者が構造を把握できずに失敗する可能性が高い
- 組織のID付与 歴史民俗系博物館協議会（778館） 大学（すでに問題ないはず）
 - 発見の単位としてのID

今後に向けて

- （広義の）歴史資料のアクセスを可能に
- 長期的に・安定的に
- 研究資源として歴史モノ資料を活用できるように→「学問としての人文学」を可視化するために
- 永く歴史資料を保持するためにも→識別されない資料の脆弱性 本物を守るデジタル識別子

